

# 幼稚園から小学校へ

—幼稚園と小学校幼年級の眞の聯結— 倉 橋 惣 三

## 一、幼稚園と小学校との關係

小學校と幼稚園との關係と云ふことに就て色々な問題がある。しかも、其れが今日必ずしも理想的に滑かに行つて居ない問題であります。それに就て事實上の解決を考へる前に、先づ氣のつくことは、今日の我が國で行れて居るやうな小學校と幼稚園の關係に於きましては、之を材料として幼稚園と小學校との關係を考へて行くこと云ふことは餘程困難であります。従つて小學校の方からは幼稚園を責めると云ふやうなことになる易いのであります。其結果として、幼稚園の方の人々は幼稚園の教育は小學校の教育に對して直接の準備をして居るものでないこと云ふ様なことを言つて見たりするのであります。私共も時にはさう云ふ言葉を使ふこともある。幼稚園教育は兒童生活の一般的の教育をして居るだけのことであつて、小學校の豫備教育として小學校の準備

教育としてして居るものでないこと云ふのです。其の意味は、我々の幼稚園は今日あるがまゝの小學校教育法に這入るのに都合の宜いやうに、眺へ向きに、注文に應じて教育をして行く所ぢやないこと云ふ斯う云ふ意味なのです。併し、特にそんなことを言ひ出す必要のない時、もつと平たく考へて見ますならば、幼稚園の時期から小學校の時期に繋つて行くこと云ふことは當然のことであり、又幼稚園を出た子供は悉く小學校に這入ると云ふことも明瞭なことでありますから、幼稚園の教育は小學校の教育に無關係、無頓著だといふのは、甚だ奇妙なことになるのです。矢張有らゆる意味に於て幼稚園と云ふものは小學教育の基礎となり準備となること云ふことは極めて當然なことであります。然るに、往々議論が起るといふのは、詰り幼稚園と小學校の關係を餘りに區別して居ると云ふ所から起つて來る結果でありませう。實際問題として、子供の個人の發達から言つても、或

は子供の教育全體から見通して云ひましても、幼稚園と小學校は決して離れて居るものでないのでありますが、併しそれを色々のことで離して居る爲に、斯う云ふ風な問題が起つて來るに過ぎないのです。

## 二、幼稚園と小學校との

### 結びつけ方

そこで幼稚園と小學校とを離さないで結付けて行かうとするには二つの方法がありませう。一つは教育行政の上から教育系統と云ふものを立て變へることでありませう。それから一つは教育の行政に於ける系統は必ずしも幼稚園と小學校とを一つに結付けなくても、其教育の方法に於て其關係を見出して行くこと云ふことです。先づ其行政的教育系統の方から考へて見ますならば、幼稚園を小學校と同じ教育系統の中に完全に置かうとするには幼稚園を義務教育としなくちやならぬと云ふことになる。これは、よく主張する人もあり、私共も趣旨としては勿論賛成、賛成といふよりも進んで主張することですが、今日の實際問題としては、幼稚園を義務教育にすると云ふことは實行の點から困難があります。一つは國の

教育經濟の問題即ち教育費の問題であります。今日の有らゆる國の普通教育問題として、所謂義務就學年限を上と下とへ延ばさうといふことがある。教育の進歩はおのづから此の問題を惹起するので、我國の目下問題になつて居る八年制論は詰り、六年の義務教育を上へ延長するのです。ところで、之れは、國民教育上何よりも急務とする必要で、一體、今日の文明國で、六年制にさめて居るのは、我國だけと言つていゝのです。之れは、どうしても、一日も早く實現しなければならぬ。ところが、それには可なりな經費を要します。それが我國として、相當大きな問題であることは、よく御承知の通りです。

さう云ふ今日の現狀でありますからして教育を下へ延して行くこと云ふことに於て、理論としては、其見る所に依つて何方が必要かと云ふ一概な比較論は出來ないのでありますけれども、今日目下の時代の必要から見て、幼稚園と云ふものが、義務教育の中に本當に這入ると云ふことは、そう／＼急速には實現の六かしいところがありませう。そこで、義務教育にしないで、今日よりも幼稚園を發育させて行く方法、即ち幼稚園の社會的普及と充實を計つて行くこと

云ふ餘地はまだ幾らもある譯でありますが、我々の目前の努力はそこにあるのぢやないかと思つて居ります。

### 三、八歳までの一系統

先づそう云ふ風な譯で教育行政の上で之を義務教育にして行かうと云ふことは、我々の希望する所ではありませんけれど困難な問題で、殘る所の問題は即ち

教育の方法を、或は教育の本質に於て、即ち外的の結付けでなく、內的の結付けをして行かうと云ふことになります。其內的の結付けをして行かうと云ふことになり、是は悉く是認された問題と云つて宜い。

コロンビア大學とシカゴ大學の初等教育のやり方などはそれを當然のこととして解釋して居る。教育管理の上からは小學校と幼稚園とは分れて居りますけれども、併し其中の教育の内容に關しては、小學校の幼學年の一二年のクラスと云ふものは寧ろ幼稚園の方に附著して居るやうな、或は幼稚園が、此方に附著して居ると云つても宜いのでありますが、實際の形に於ては幼學年は小學校から離れて幼稚園と一

緒になつて居ると云ふやうな形をして居る。設備の仕方から云ひましても先生の働き方の上から云ひましても、其學校内の教育系統としては、一つ系統に置かれて居ります。當に此二つの大きな大學の幼稚園でやつて居るばかりでなく普通の師範學校にあります所の幼稚園に於きましても、少し進歩した所では二年までは行かなくても一年は幼稚園と非常に密接な關係を以てやつて居る所が多い。

それから亞米利加に幼稚園普及協會と云ふものがあります。ワシントンに其本部があり。シカゴの近くのドーナーグロブといふ處の幼稚園は其の協會でやつて居る所がありますが、其幼稚園普及協會と云ふものが初め亞米利加に立ちました目的は會の名のあらはず通り幼稚園の普及と云ふことであつた。

幼稚園と云ふものを成るべく多く色々の所に建て、行かうと云ふ目的であつたのです。所が今日は幼稚園を數に於て普及して行かうと云ふことは亞米利加ではもう必要がない問題になつて來た。そこで寧ろ幼稚園的な教育の本質、或は幼稚園的教育方法とでも云ふものを小學校へ普及して行かうと云ふ意味に於て、其普及と云ふことの目當てが變つて來ました。

其の幼稚園教育の本質方法は何處に普及するかと云ふと、それは色々の所に其普及の餘地が残つて居る譯であります。差當り幼學年の所に普及して行かうと云ふのです。幼稚園其もの數を殖す爲に起つた幼稚園普及協會が、小學校の中に幼稚園をどう入れて行かうか、幼稚園教育法と云ふものをどう小學校に擴げて行かうと云ふ風に目的を變へて來て居るのであります。其結果ドーナツグロブでは尋常一二年と幼稚園とを結びつけた一つの學校を(?)建て、居るのです。そつといふのが彼方此方に來出て居ます。ところで、此處の二年までしました所の子供は何處へでも自分の近所の學校の三年級に容易に結付けると云ふ機會が出來て居る。私共は初め其關係が非常に何だか難かしいことのやうに思へて、これは非常に良い考だが此處で二年までやつて三年以上を御やりにならないと、子供はどうなるのですかと云ふことを私は非常に何か大問題のやうにして聞いて見ると、向ふの人には私の問ふ心持ちが能く分らない。何故分らぬかと云へば私がそれを六かしそんな問題にして居ることが分らない。二年が濟んだら何處の學校だつて其年になつて居るものは其年の子供とし

て受取るのは當前ではないかと云ふ風ならくなくことに考へられもし、行はれもして居るのです。我々の社會で斯う云ふことをしたならば入學試験を屹度しませう。のみならずあんな自由な幼稚園なんかのやり方でやつて來た子供は更に一層嚴密に試験をしなくちやならぬと云ふ譯になりませう。話が一寸、それでしたが、此一二年と幼稚園とを結付けるのは、即ち三歳から八歳までの教育を一つの教育區分に立てたことになる。教育の區分を三歳から六歳までにしないで、八歳までにすると云ふことの傾向は是は今日亞米利加に於て立派に認められて、もう議論時代ではありませぬ。例の幼稚園雜誌といつて居た雜誌が「幼稚園及び初年級」と云ふ名稱になつたのも、もう古いことではありますが、さう云ふものを我々が讀んで居つた時に、一つの改良意見だと思つて居つた所が今日亞米利加では既に事實上のこととして承認され實行されて居るのである。萬國幼稚園協會が幼稚園保育綱要を書いて居ります時にも、矢張り八歳までと云ふことにして書いてある。即ち八歳まで適用される方法であるとして、其ことを考へて居るのであります。

シカゴ大學の幼稚園では、幼稚園から廊下傳ひに小學校の一二年の教室がありました、さうして幼稚園の方へ這入つて見ての感じと、小學校幼年級の組へ這入つて見ての我々の感じと云ふものは全く違はない。其子供の數の關係も、或は設備の様子も、或は其中で子供の色々やつて居ります生活の有様も、或は其中の裝飾も、ちつとも變らない。それから三年四年邊りの教室に行つても、我が國のやうにきちんと机を置いてさうして他に動いてはいけぬと云ふやうなやり方でなく、亂雑な、此方に彼方に作り掛けのものが、置いてあつたり、まあ仕事場のやうに教室は出來て居るのですが、一二年の方になると全く幼稚園と同じやうな趣を備へて居る。我が國では幼稚園の方が小學校と同じやうな形を備へて居りますから、矢張能く似て居ると云へば能く似て居るのであります、それがまあ逆に行つて居るのです。

コロンビアの方はもつと徹底しまして、ミス、ヒルの監督の下に、一二年の組が出來て居りますが、之は全然似て居ると云ふよりも同一の、殆ど同一の仕組で其部屋が共通に使つて居ると云ふやうなやり方をしてある。此方でも先生は始終往復して居りまして、

尋常一二年の先生は三四年の先生と話をするよりも幼稚園の先生と話をする機會が多い位です。雙方の先生がそう云ふ風に懇意であるばかりでなく、幼稚園の先生は二年まで持ち上るのでありますからして、詰り教員の配當といふものが、同一組織のもとに行はれる。

#### 四、初年級の革新

教育の方法に就きましては、シカゴの方もコロンビアの方も、所謂「プロヂェリトメソッド」を執つて居るのでありますからして、從來の學習的方法でなく暗記的方法でなく、従つて幼稚園に於ける方法と、小學校の一二年に於ける教へ方とその態度としては違つて來ない。勿論四歳の子供のプロヂェクトと七歳の子供のプロヂェクトは其子供自身の能力の發達に依つてプロヂェクトの仕方が、違つて參ります。

内容的には幼稚園と小學校とは勿論程度違つたものになつて來ますけれども、併し其取扱方としては、矢張或る一つの目的を立て、其目的に向つて問題を解決して行く。或は單に抽象的な問題を解決するばかりでなく、具體的解決、即ち製作と云ふものをさ

せて行くこと云ふやうなことに於ては、幼稚園と小學校と云ふものは少しも違はないのであります。コロンビアの尋常一年を可成り續いて見ましたが、殆ど机を並べて其腰掛に皆一緒に腰掛けて、さうして先生から本を教へられて居ると云ふやうな形と云ふものは殆どないのであります。部屋の中をちよつと見ると、極めて亂雑な、そちらの隅の方に机があつたり椅子があつたりするやうな亂雑な仕方であつて、大工道具や木の切れがあつたり、色々のものがそこにあります。そこで子供は色々自分の作業をして居る。之は丁度我が國に於ても少し進んだ小學校でやつて居る有様であります。所謂自由作業の時間と同じことを平常にして居るのであります。我々が外から見ましてさう云ふ形を備へて居るのでありますからして、子供の方から見ますならば幼稚園の部屋に居ります時も、尋常一年の部屋に這入つて行く時も自分の生活形式と云ふことを變へて行く必要はない。我國の様に、幼稚園に於けるあの自由な態度を、小學校に於ては所謂受身の學習的態度に自分が、變へて來なくちやならぬと云ふ必要は子供の方にもないのであります。

従つて抽象的の自負心としては、自分は幼稚園から小學校の生徒になつたと云ふ多少の緊張は起るかも知れませぬが、併ながら、我が國に於けるが如く、其の生活の態度それ自身が變つて來る爲に、今では自分の興味を主として、自分の好き好みでやつて居つた生活から、先生を主にした受身の生活に變つて來るとか、或は個人的な自由な生活から集團として纏められた束縛せられた生活をしなくちやならぬやうになつて來るとか云ふやうな、本質的な、殊に急劇な變化はないのであります。是は甚だ注意すべき問題ぢやないかと思ひます。詰り我々の小學校のやり方では小學校へ來たと云ふ自負心から來る緊張よりも、其小學校に於ける生活の變り方から來る所の緊張と云ふものが、主になつて居る。所が此亞米利加流の此やり方で云ひますならば、小學校へ入つた爲に何も生活それ自身を變へて一層鉢巻をしなければならぬ、一層襷を固くしなければならぬと云ふ意味の無理な緊張はない。唯自分は兄さんになつた、弟と云ふものが下に出來て兄さんになつたと云ふやうな人間的自負心から來る所の緊張が起るだけです。少くとも内的緊張は起りませうが、外的の緊張

は起すと云ふことはないのであります。

斯う云ふ風な形に於て小學校の幼學年級が段々幼稚園と云ふものと其關係が密接になつて參ります。

今日我國では、幼稚園から來たものは小學校に於ける學習態度の準備が出來て居ないと云ふので非難されたりして居る。詰り、受動的注意が足りないとか、集團的におとなしくして居ることが足りないとか言つて非難されたりする。併し其小學校の幼年級に於ける生活そのものが、其學習的態度と云ふものそのものが變つて仕舞つて、矢張幼稚園でやつて居ること同じやうなプロジェクトの生活、自分の目的を自分で解決して行く、或は具體的の製作の生活が本體になつて來れば、豫めさういふ生活態度を幼稚園でならされて來たものは、即ち其の小學校の生活に準備されて居るといふことになる。此處に始めて、幼稚園と小學校との本當の聯結がつく譯ではありますまいか。(筆記)

### ○教へんとせざる教師

「親鸞は弟子一人も持たず、たゞ如來の教法を、われも信じ人に教へ聞かしむばかりなり、何を教へて弟子とは言はむ」といふが聖人の態度であつた。しかし聖人の内に、愚禿親鸞の方面と聖人親鸞の方面と二つのものが動いて居つた事を知らねばならぬ。こうして自らのたまじひの問題に惱まれたのであるが、その憎みが久遠の人間性のどんぞこまで徹底した深いものであるが故に、これは十方衆生を代表したものである。この代表者としての苦悶は、やがて聖人が、聖人親鸞として致て、御同朋御同行のために、著述をなし、化道をなされた所以であらう。

釋尊も同じ態度であつた。この意味に於て聖人は人天の大導師、人生の大教師、大教育者であると言へるのである。しかしそれは敢て教へんとせざる教師、導かんとせざる教師であつた。

この態度なくして教師とならば、それは必ず過誤を生ずるであらう。(「教育學術界」―親鸞と教育研究號より)